

設置工事技術資料

全熱交換型24時間換気システム エアロード24C [TSK-24C]

本機器に関する施工は、本技術資料に従っておこなってください。

— 施工手順 —

施工打ち合せ



①ユニット本体の設置



②ダクトの設置



③パイプフードの取付け



④ダクトの設置



⑤グリルの取り付け



⑥スイッチの取り付け



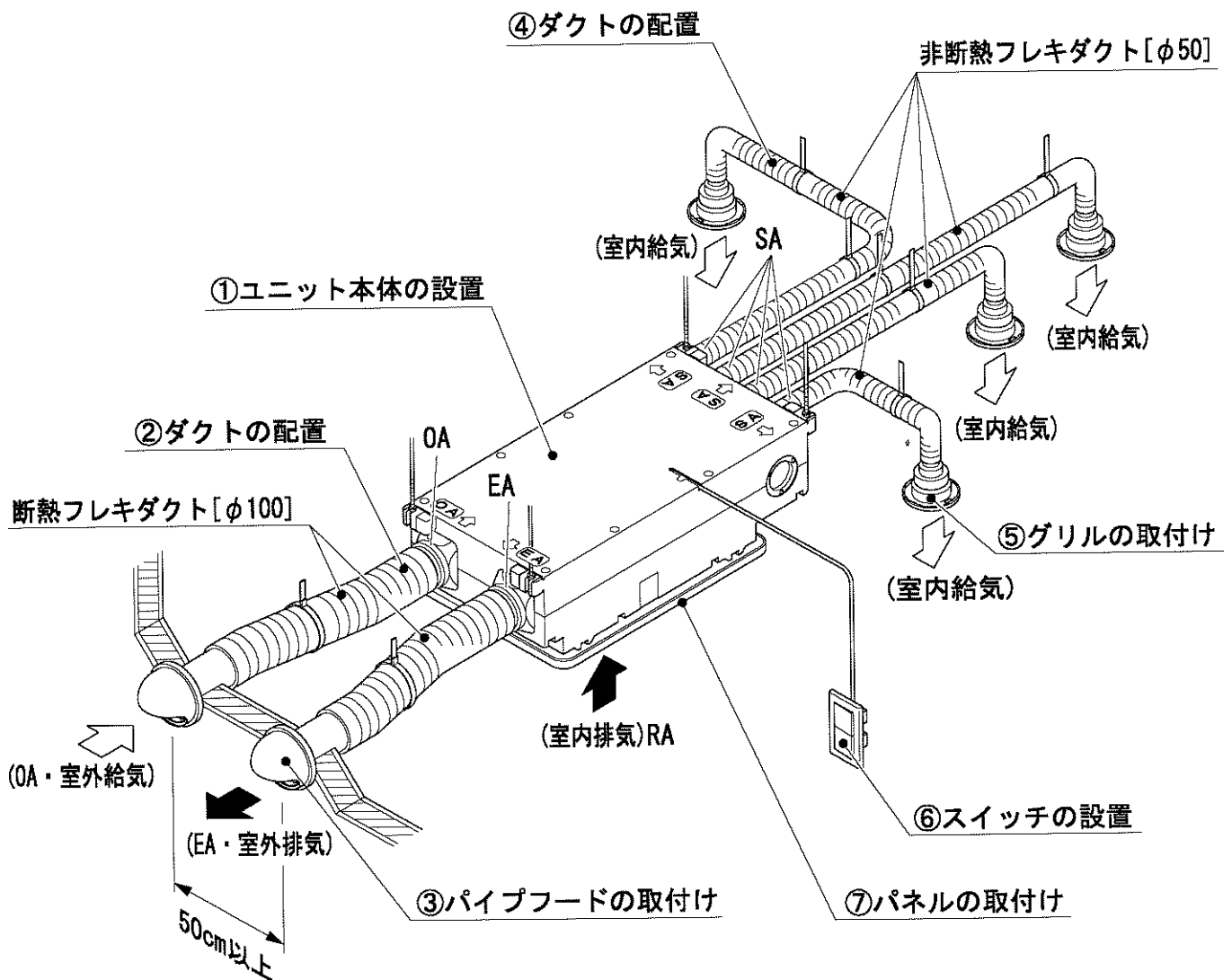
⑦パネルの取り付け



フィルター・熱交換素子のお手入れ方法

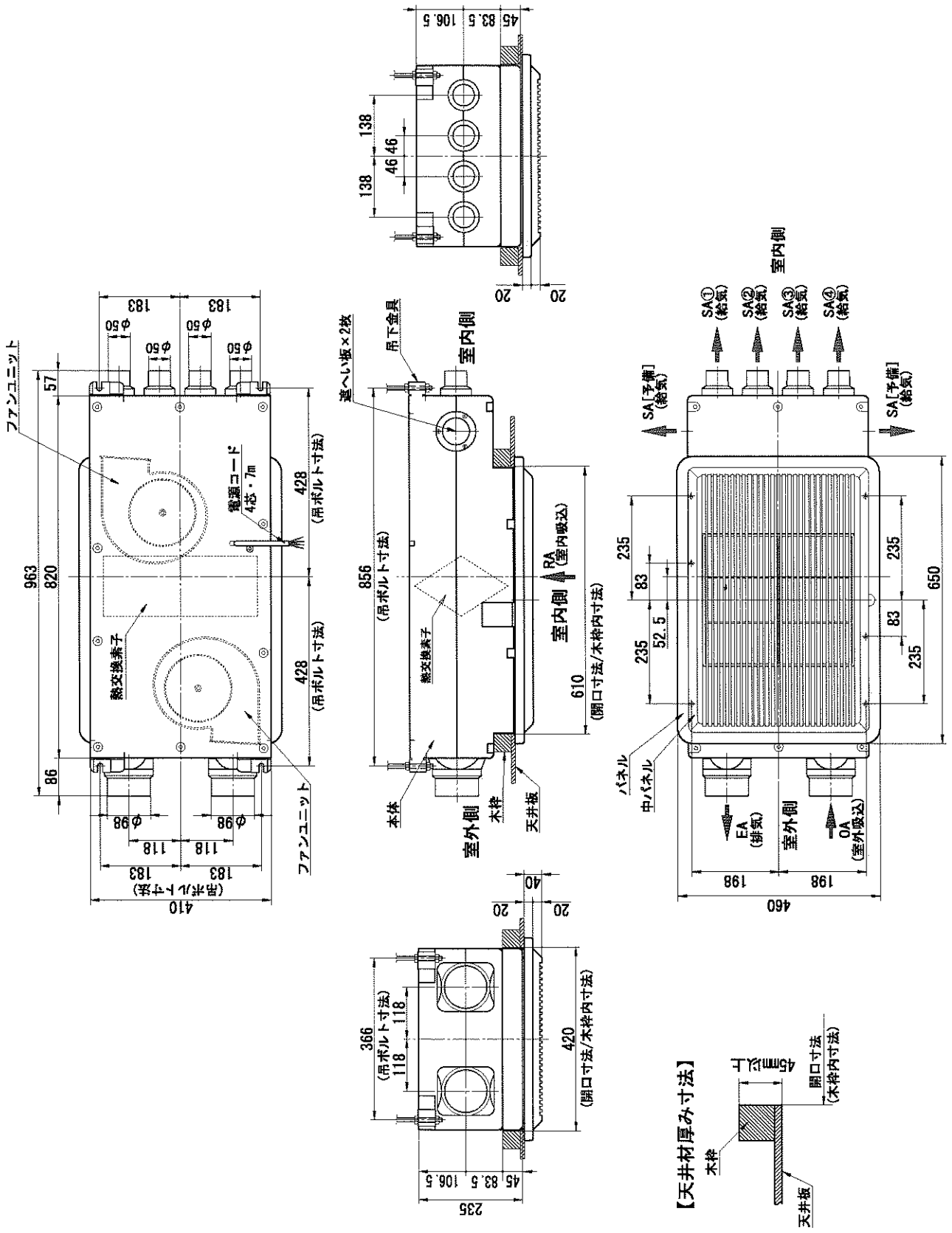
全熱交換型24時間換気システム施工イメージ図

エアロード24C換気システム [TSK-24 C]



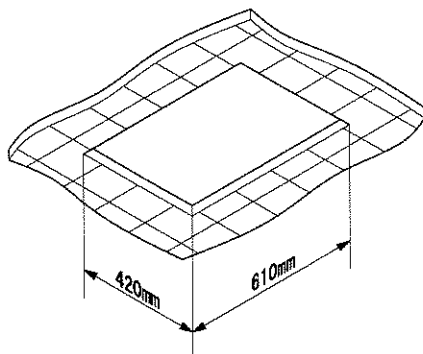
※施工打ち合せ
施工工事を行う前に必ず現場打ち合せを行い、作業区分や
本体・ダクトの設置場所などの確認を行ってください。

各部の名称と寸法

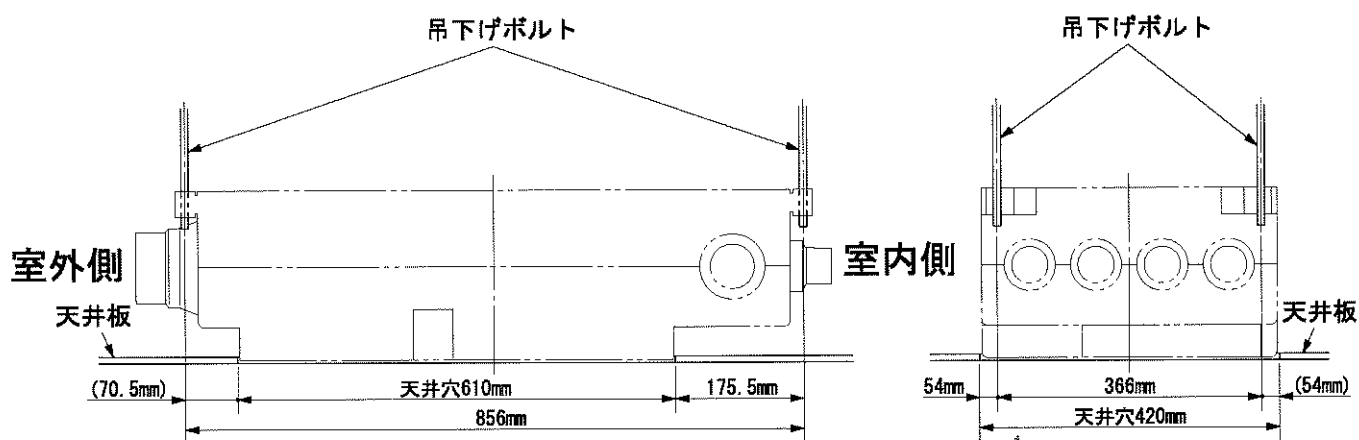


①ユニット本体の設置

1. 設置する天井板に420mm×610mmの穴をあけます。



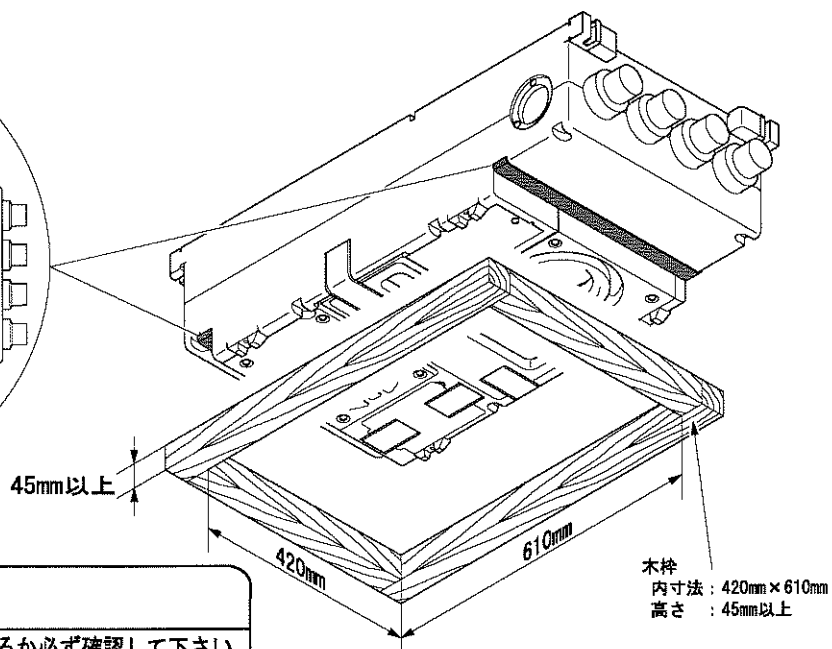
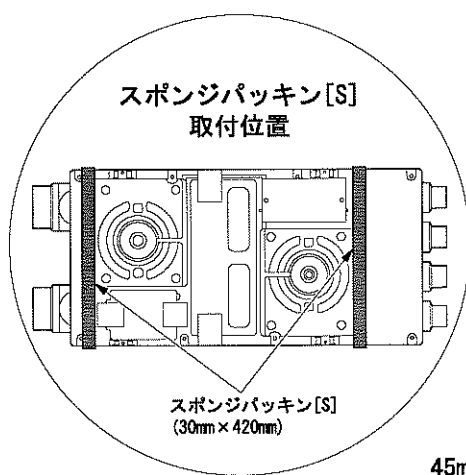
2. 下図の寸法で、吊下げボルトを固定します。
(天井板の穴からの寸法が、室内側と室外側とは異なりますので注意して下さい。)



⚠ 注意

- 指定ネジ固定寸法を、必ずお守り下さい。
不完全な場合は、本製品の性能を十分発揮出来ない事があります。

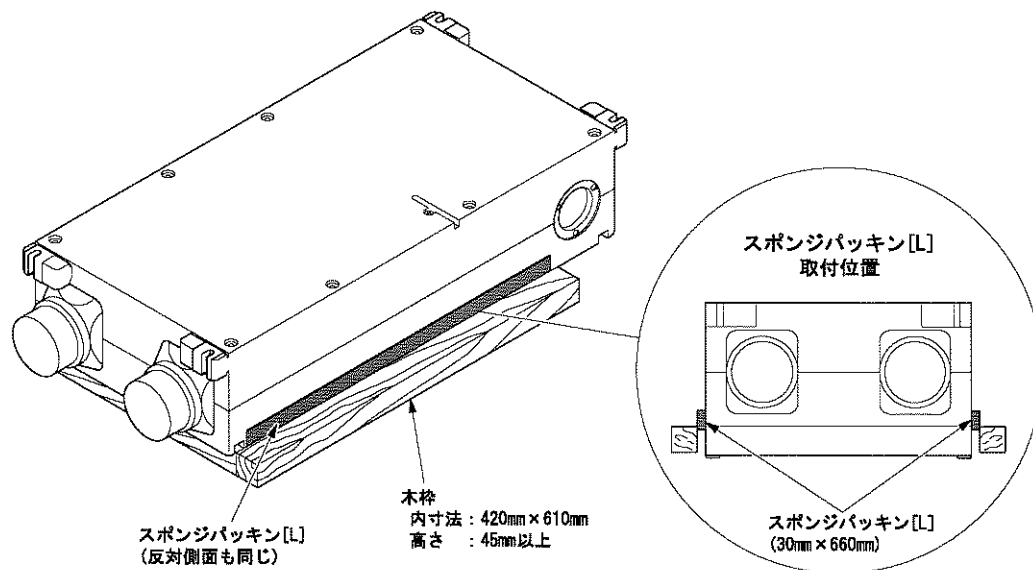
3. スポンジパッキン[S] (30mm×420mm) を本体の裏側に貼付け木枠に挿入します。



⚠ 注意

- スポンジパッキンを、本体と木枠ではさんでいるか必ず確認して下さい。
不完全な場合は、本製品の性能を十分発揮出来ない事があります。
- 指定木枠内寸法を、必ずお守り下さい。
不完全な場合は、本製品の性能を十分発揮出来ない事があります。

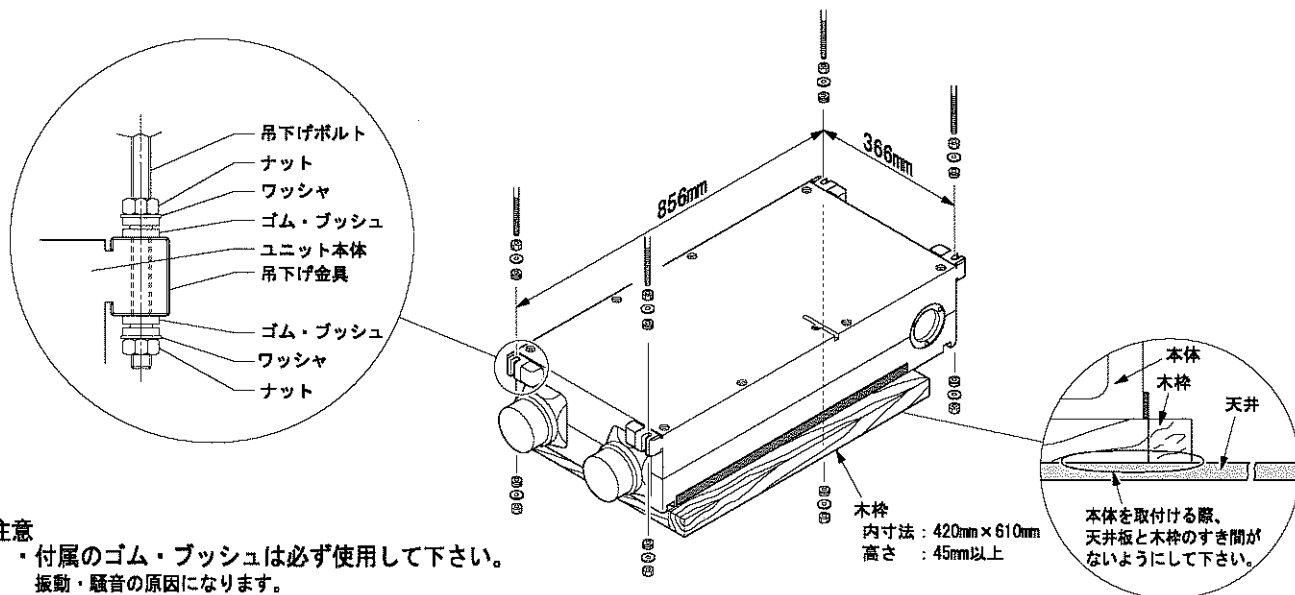
4. 本体と木枠のすき間を隠すようにパッキン[L] (30mm×660mm) を本体側面に張付けます。



⚠ 注意

- スポンジパッキンで、本体と木枠のすき間を確実にふさいでいるか必ず確認して下さい。
不完全な場合は、本製品の性能を十分発揮出来ない事があります。

5. 固定した吊下げボルトに、本体をゴム・ブッシュ (付属品)、ナット、ワッシャで止めます。
(本体を取付ける際、天井板と木枠のすき間がないようにして下さい。)



注意

- ・付属のゴム・ブッシュは必ず使用して下さい。
振動・騒音の原因になります。
- ※ボルト、ワッシャ、ナットは、現場にてご用意下さい。
- ※取付けが不十分だと危険であるとともに、振動・異音の原因ともなりますので注意して下さい。

⚠ 警告

- ユニット本体の据え付けは、確実に取付けて下さい。
落下によりけがをする恐れがあります。

- ・天井吊下げボルト、ナット、ワッシャ、木ねじはお客様にてご用意下さい。
- ・取付けは、製品の重量 (7.0kg) に十分耐えるようにしっかりと、水平に取付けて下さい。

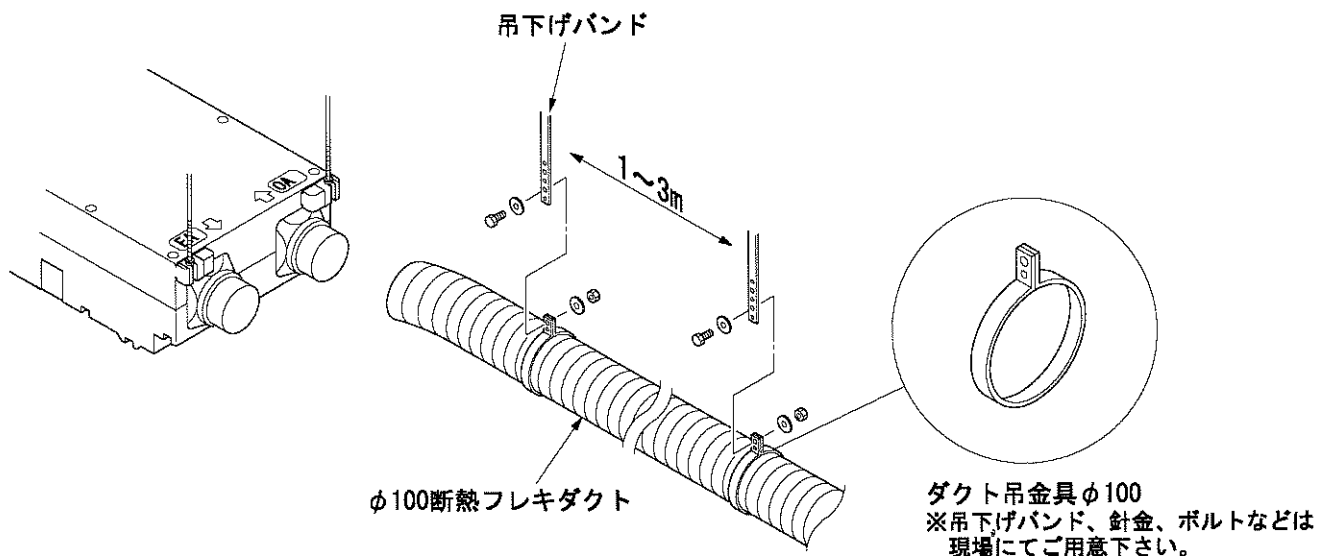
⚠ 注意

- 据え付け工事部品は必ず指定部品 (付属部品も含む) を使用して下さい。
指定部品を使用しないと、ユニットの落下、火災、感電などの原因になります。
- 付属のゴム・ブッシュは必ず使用して下さい。
振動・騒音の原因になります。
- 天井板と木枠のすき間がないか必ず確認して下さい。
不完全な場合は、本製品の性能を十分発揮出来ない事があります。

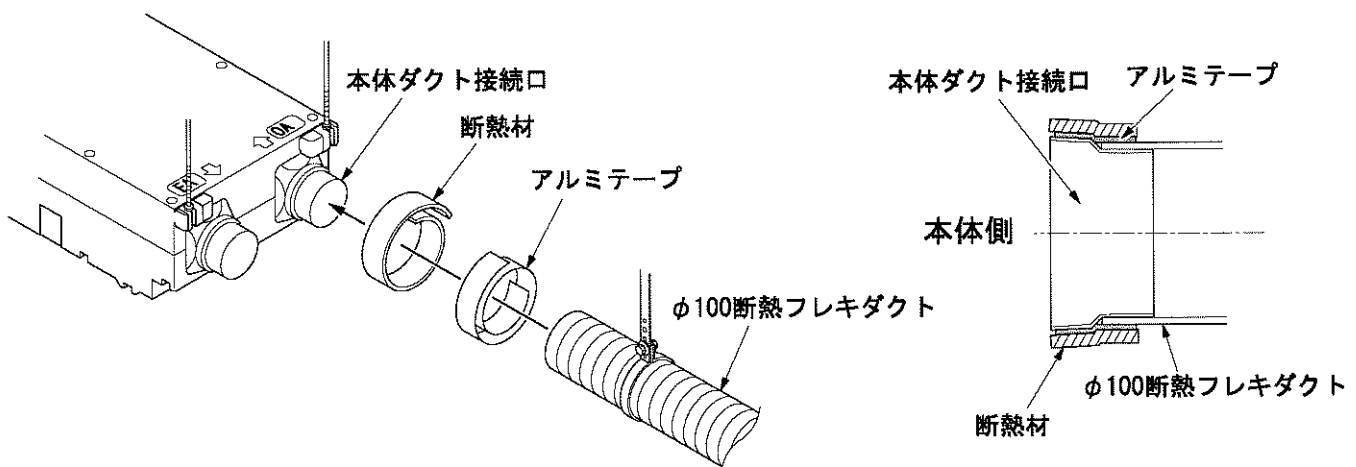
②ダクトの設置(1)

【室外給排気側】

1. 1~3m間隔で、ダクトを吊下げるための吊下げバンド、または針金を天上面に取付けます。
2. 断熱フレキダクトφ100に、ダクト吊金具φ100を取付けます。
3. ダクト吊金具φ100と天井面に取り付けた吊下げバンドなどをボルトで固定します。
(野縁施工後ダクトを配管する場合はころがし配管ができるので、ダクトを吊下げる必要はありません。)

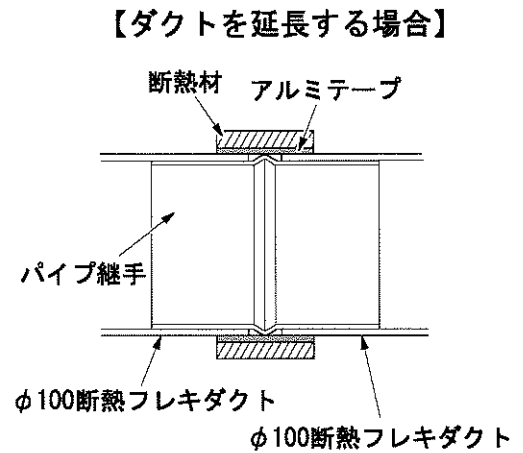
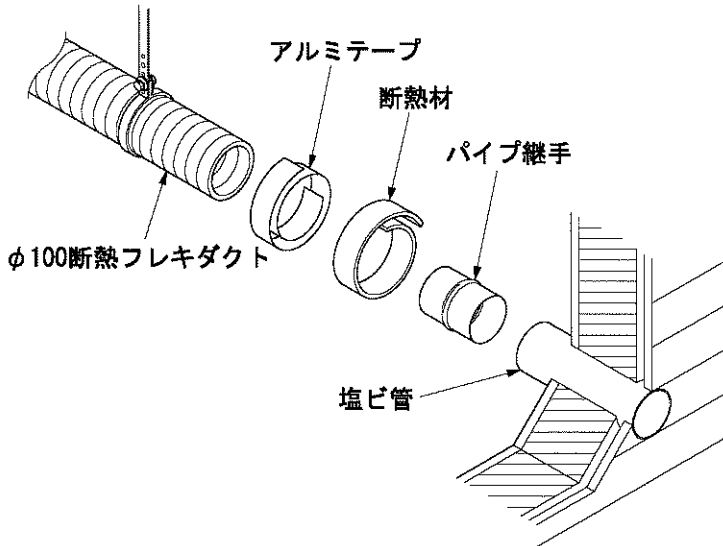


4. 断熱フレキダクトを適切な長さに切断します。
5. φ100断熱フレキダクトを、本体にしっかりと差込みます。
6. 差し込んだ部分をアルミテープで巻いて止めます。
(本体ダクト接続口などの、断熱フレキダクトにおおわれていないところは、断熱材を使用して下さい。)



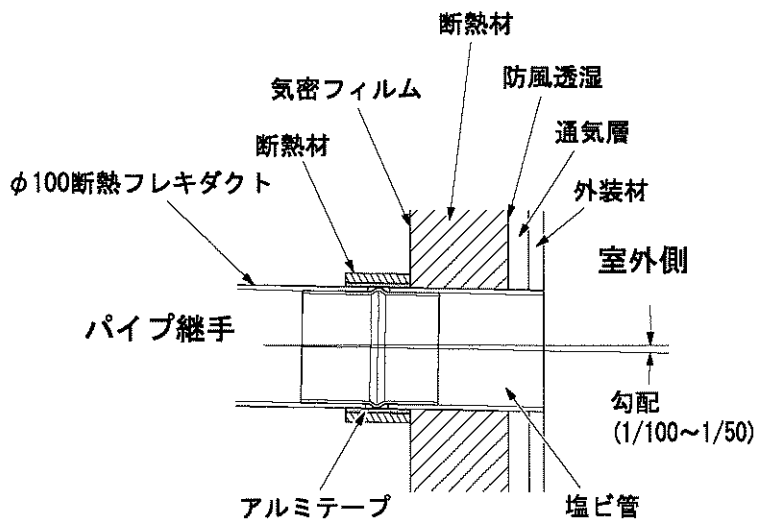
※アルミテープ貼り付け後、接着力を強めるために、アルミテープの表面を強くしごいて十分密着させて下さい。
ダクトが、断熱空間外にある場合は、断熱ダクトをご使用下さい。

7. パイプ継手を使ってダクトと壁面に設置した塩ビ管にしっかり差し込みつなぎます。
8. つないだダクトと塩ビ管をアルミテープで巻いて止めます。
(塩ビ管などの、断熱フレキダクトにおおわれていないところは、断熱材を使用して下さい。)



⚠ 注意

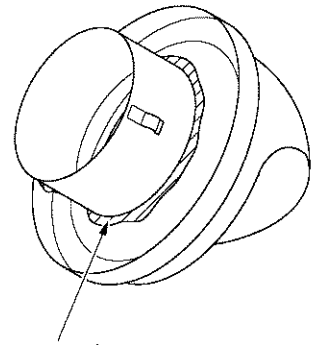
- 換気ユニット室外側のダクトは室外側へ下り勾配にして下さい。
不完全な場合は室内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。



※アルミテープ貼り付け後、接着力を強めるために、アルミテープの表面を強くしごいて十分密着させて下さい。

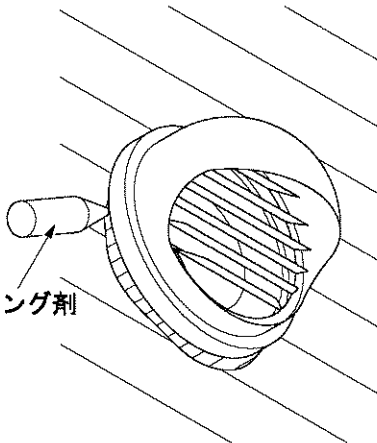
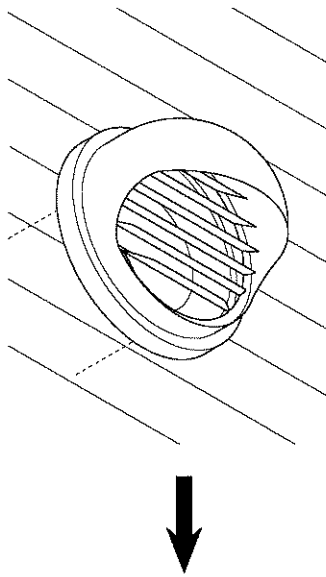
③パイプフードの取付け

1. パイプフードを取付ける前に、コーキング剤を施します。



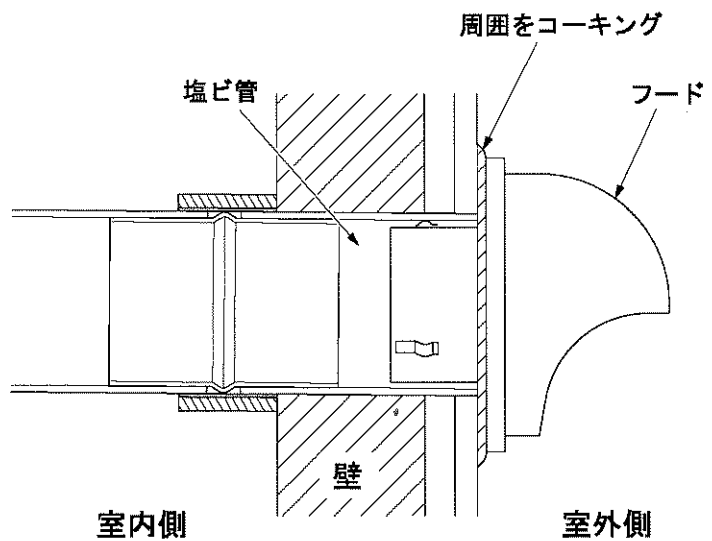
2. パイプフードの開口部が下になるように塩ビ管に差し込み、周囲をコーキングします。

コーキング剤

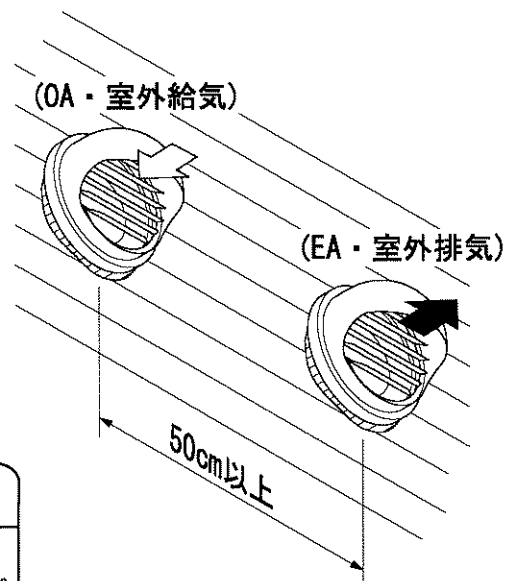


コーキング剤

※コーキング剤は、現場でご用意下さい。



※給気口と排気口の中心距離は50cm以上離して下さい。
(排気した空気を再び給気することを防ぐため)



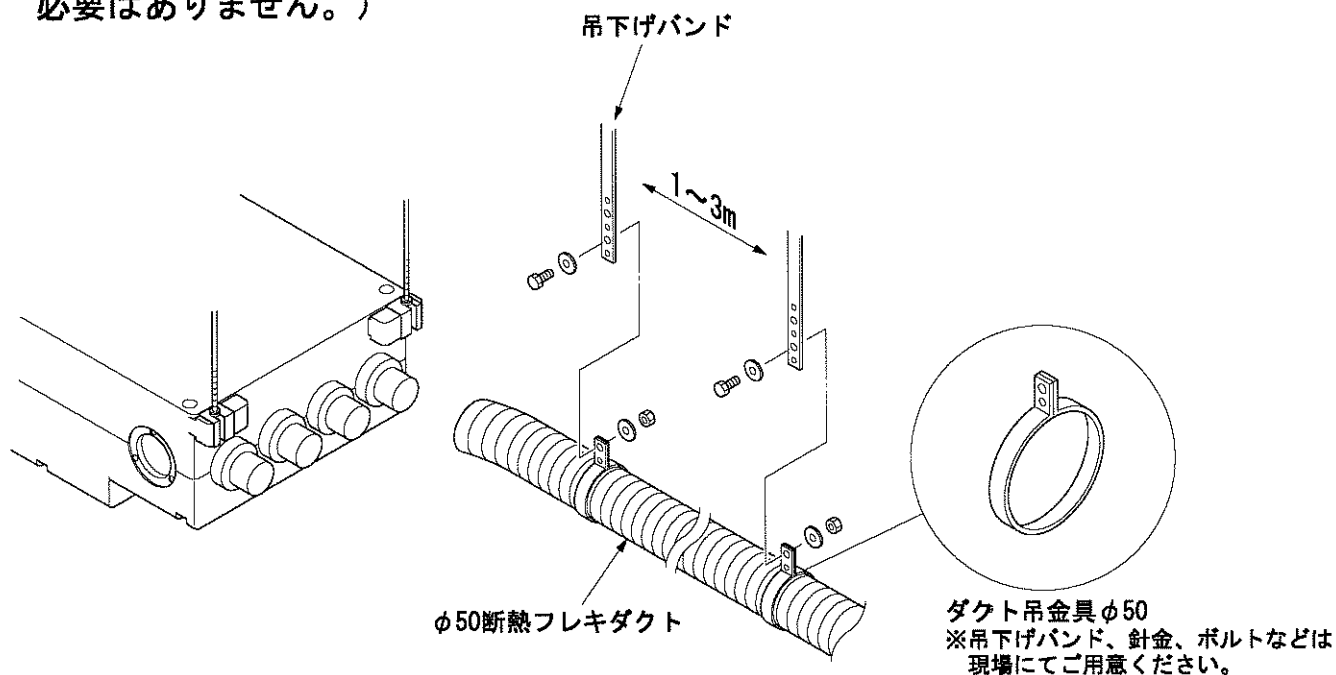
⚠ 注意

●パイプフードと壁面の隙間及び全周にコーキング剤を施して下さい。
不完全な場合は、壁内・室内に浸水し、壁面を汚す原因になることがあります。

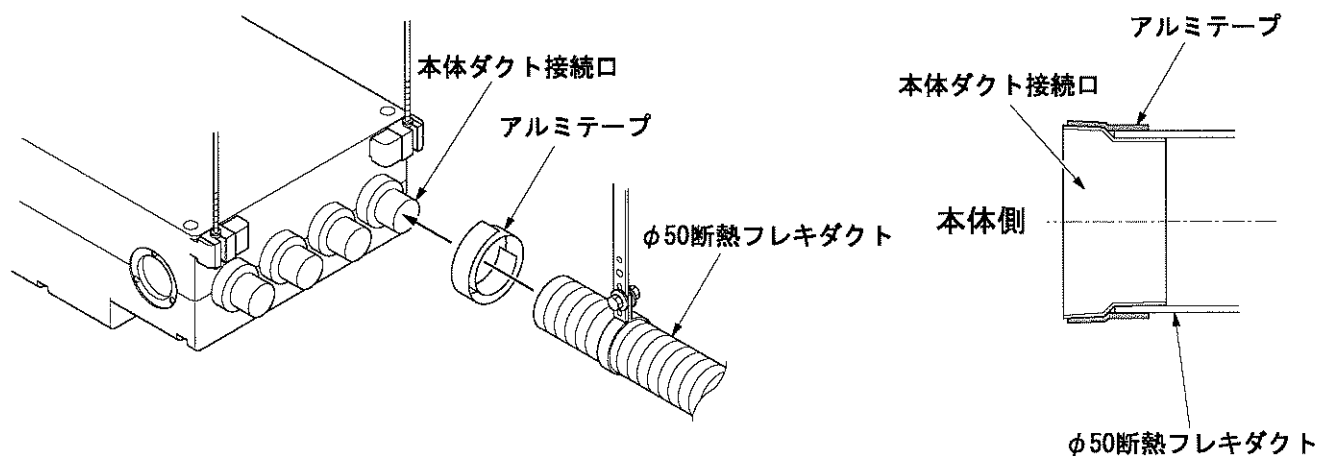
④ダクトの設置(2)

【室内給気側】

1. 1~3m間隔で、ダクトを吊下げるための吊下げバンド、または針金を天上面に取付けます。
2. 断熱フレキダクトφ50に、ダクト吊金具φ50を取付けます。
3. ダクト吊金具φ50と天井面に取付けた吊下げバンドなどをボルトで固定します。
(野縁施工後ダクトを配管する場合はころがし配管ができるので、ダクトを吊下げる必要はありません。)



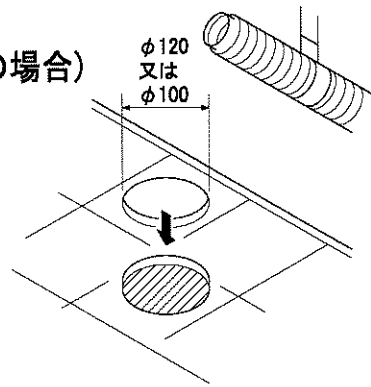
4. 断熱フレキダクトを適切な長さに切断します。
5. φ50断熱フレキダクトを、本体にしっかりと差込みます。
6. 差し込んだ部分をアルミテープで巻いて止めます。



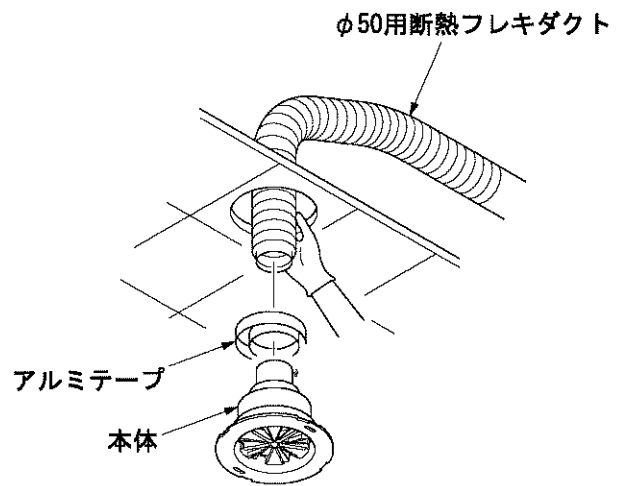
※アルミテープ貼り付け後、接着力を強めるために、アルミテープの表面を強くしごいて十分密着させて下さい。
ダクトが、断熱空間外にある場合は、断熱ダクトをご使用下さい。

⑤ グリルの取り付け

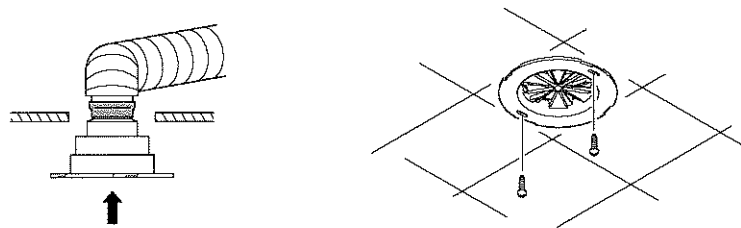
1. 設置する天井板にφ120の穴をあけます。(丸型グリルの場合)
※角型グリル使用の場合は、φ100の穴をあけます。



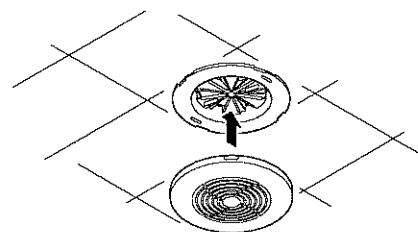
2. 本体からパネルを外します。
3. φ50用アダプターに本体を差し込みアルミテープを巻いて止めます。
4. あけた穴からダクトを引き出し、アダプターをダクトに差し込みアルミテープで巻いて止めます。



5. 本体を穴に押し込み付属のネジで固定します。



6. 外しておいたパネルを本体に取り付けます。



⚠ 注意

- グリルは確実に取り付け下さい。
落下により、けがをする恐れがあります。

※アルミテープ貼り付け後、接着力を強めるために、アルミテープの表面を強くしごいて十分密着させて下さい。

⑥スイッチの取り付け

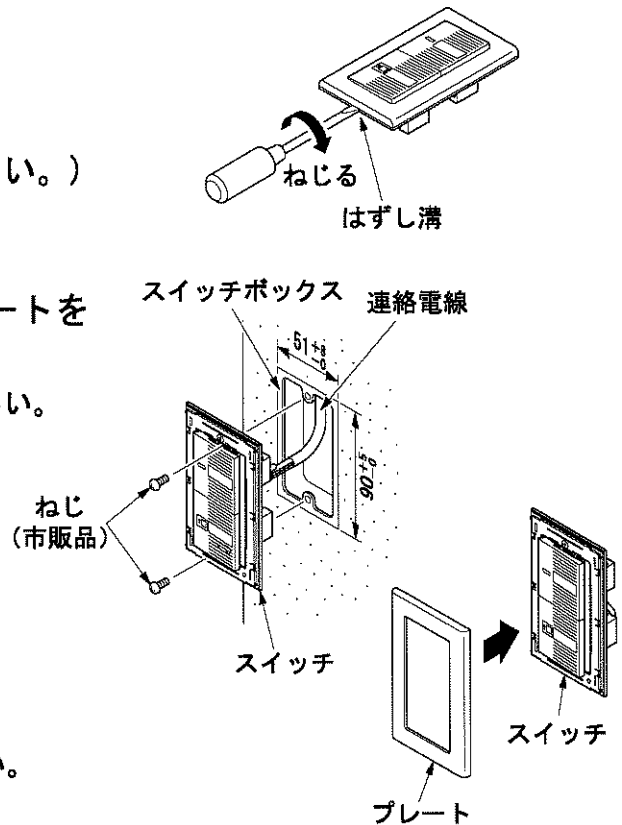
【スイッチボックスを使用する場合】

(事前にスイッチボックスを設置しておいて下さい。)
※スイッチボックスは現場にてご用意下さい。

1. マイナスドライバーなどを使用してプレートをはずします。
※プレート表面に傷をつけないように気をつけて下さい。

2. 結線図の通りに結線して、ねじ(2コ)(市販品)でスイッチボックスに取付けます。

3. プレートをはめ込みます。
※プレートの上下を間違えないように確認して下さい。

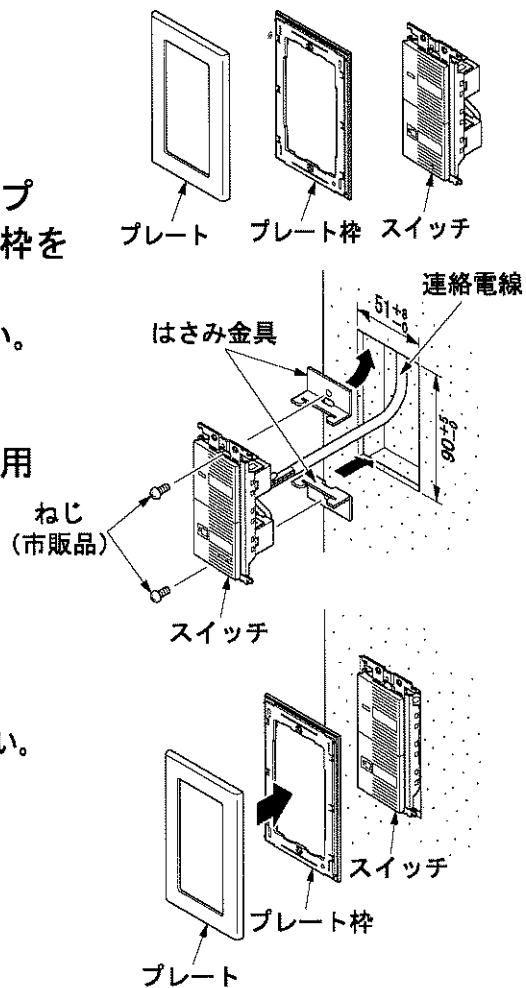


【スイッチボックスを使用しない場合】

1. スwitchボックスを使用する場合と同様にプレートをはずし、ねじをゆるめてプレート枠をはずします。
※プレート表面に傷をつけないように気をつけて下さい。

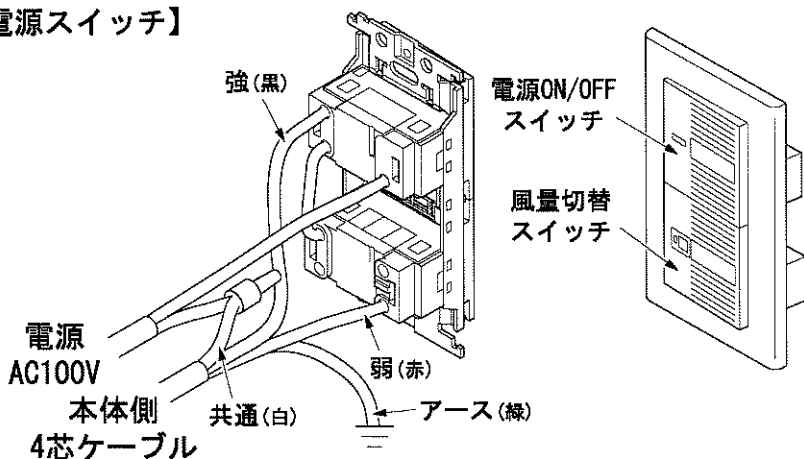
2. 結線図の通りに結線して、はさみ金具を使用して壁に取付けます。
※はさみ金具は現場にてご用意下さい。

3. プレート枠、プレートの順に取付けます。
※プレート、プレート枠の上下を間違えないように確認して下さい。



配線図

【電源スイッチ】



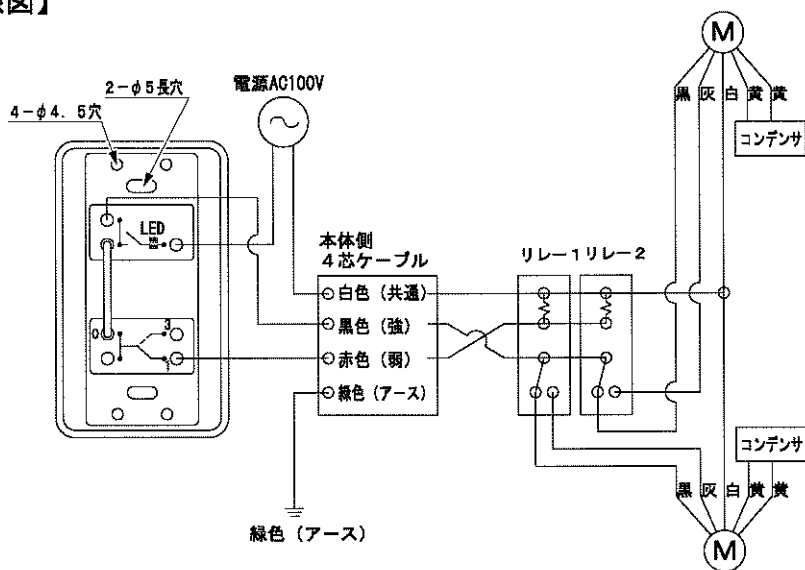
適用連絡電線

600Vビニル絶縁電線(IV)
φ1.6 φ2.0Cu単線

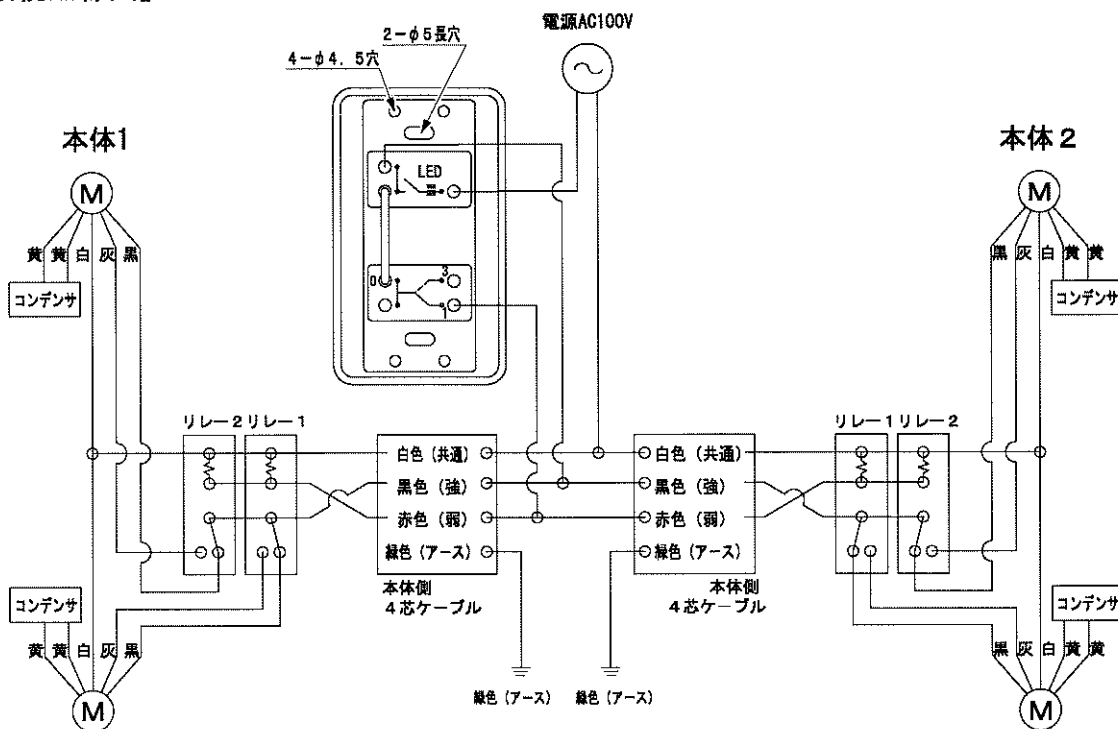
600Vビニル絶縁ビニルシースケーブル(VVF)
φ1.6 φ2.0Cu単線

12mm

【1台接続配線図】



【2台接続配線図】



⑦パネルの取付け

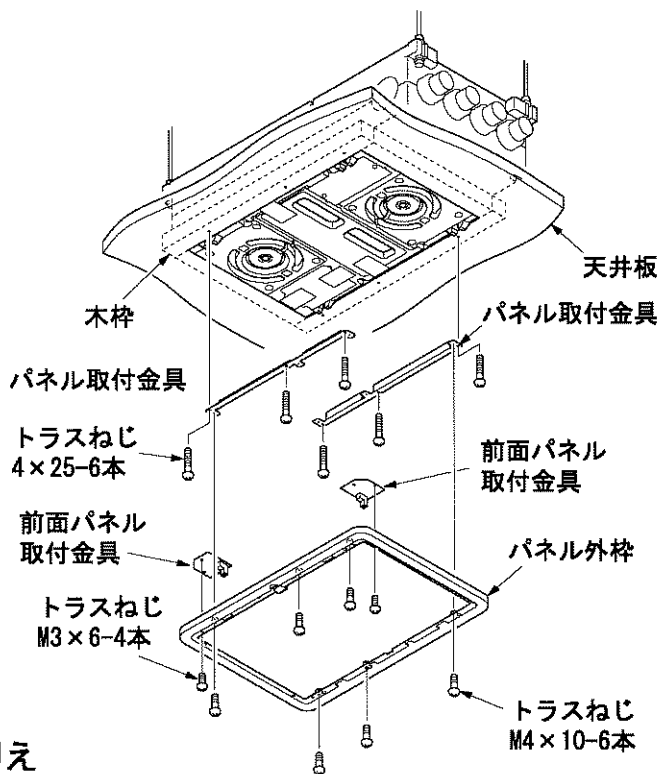
1. パネル取付金具を、付属のねじ（トラス 4×25-6本）で天井板にしっかりと取付けます。

パネル外枠を、パネル取付金具に、付属のねじ（トラスM4×10-6本）で、しっかりと取付けます。

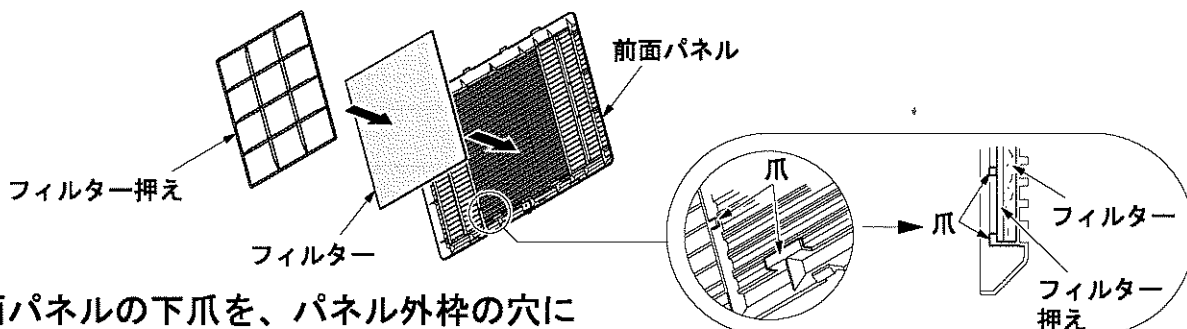
前面パネル取付金具を、パネル外枠に、付属のねじ（トラスM3×6-4本）で、しっかりと取付けます。

⚠ 注意

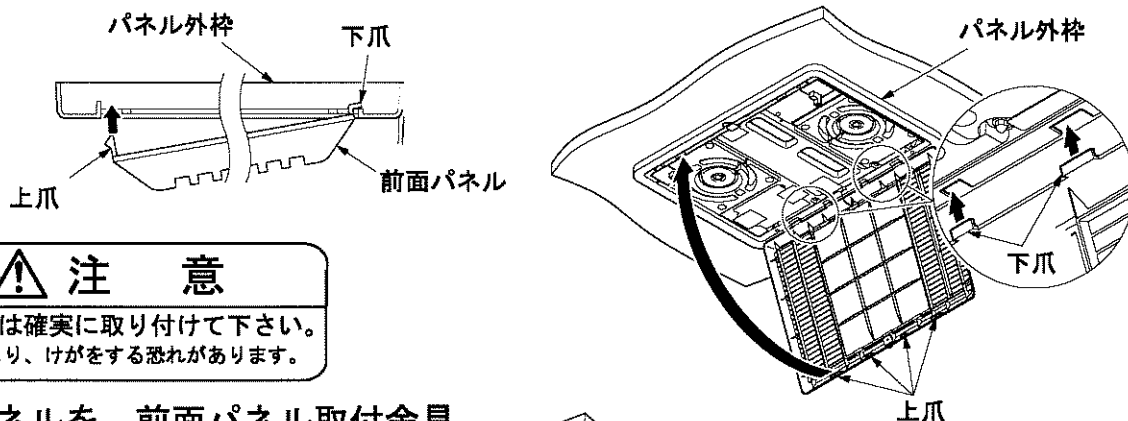
- 取付金具、外枠は確実に取り付けて下さい。落下により、けがをする恐れがあります。



2. 前面パネルに フィルターをフィルター押えで、前面パネルの爪に、はめ込みます。



3. 前面パネルの下爪を、パネル外枠の穴に引っ掛けて、全面パネルの上爪をはめ込みます。

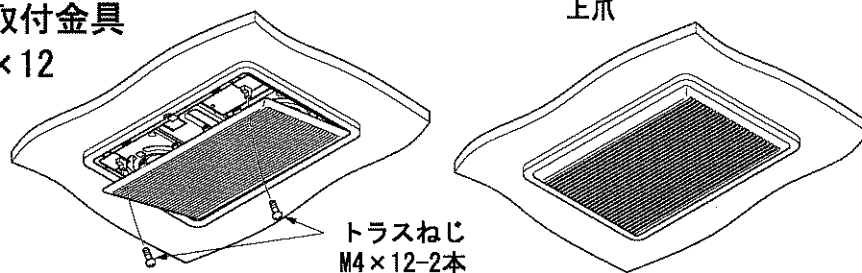


⚠ 注意

- パネルは確実に取り付けて下さい。落下により、けがをする恐れがあります。

4. 前面パネルを、前面パネル取付金具に、付属のねじ（トラスM4×12-2本）で、しっかりと取付けます。

パネル取付け完了。

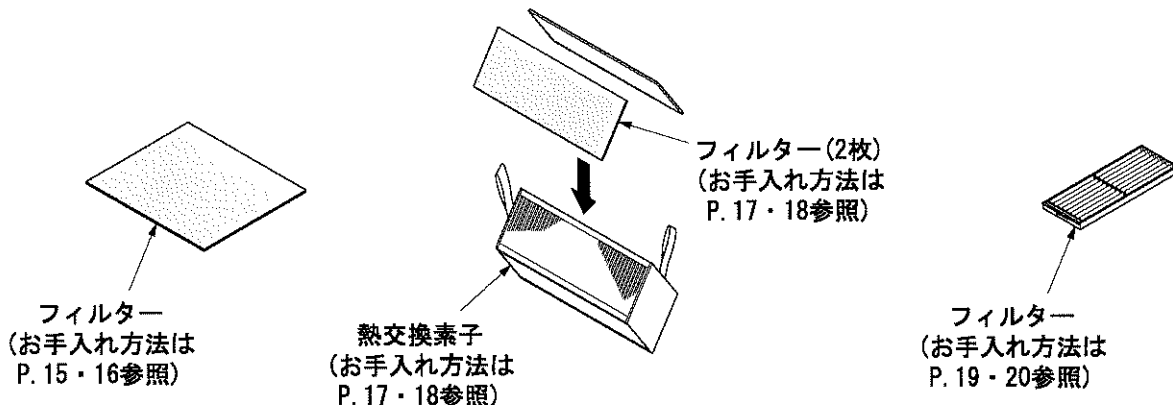


フィルター・熱交換素子のお手入れ方法

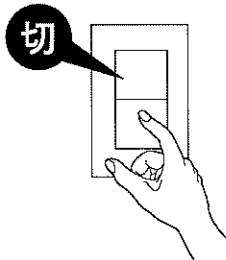
お手入れ前に

本機の性能を長く保つために

- フィルター・熱交換素子は定期的にお掃除を行って下さい。
 - ・フィルターや熱交換素子の目づまりは風量が低下し、冬期に本体、チューブなどの結露の原因となります。
- フィルターは月に1回程度、行って下さい。
- 熱交換素子は年に1～2回程度、行って下さい。



- お手入れの際は、電源スイッチを必ず「切」にして下さい。



感電やけがをすることがあります。

- お手入れの際は、ゴム手袋を使用して下さい。



板金・樹脂部品などの切り口や本体の突起、角などでけがをすることがあります。

- お手入れの際は、台所用中性洗剤をお使い下さい。



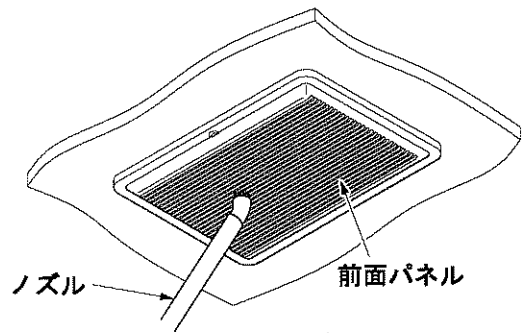
化学ぞうきんやシンナー・アルコール・ベンジン・灯油・ガソリン・みがき粉・アルカリ性合成洗剤などは変質、変色のおそれがあります。

- 高い所での作業となりますので、ホコリの落下と足場には十分にご注意下さい。

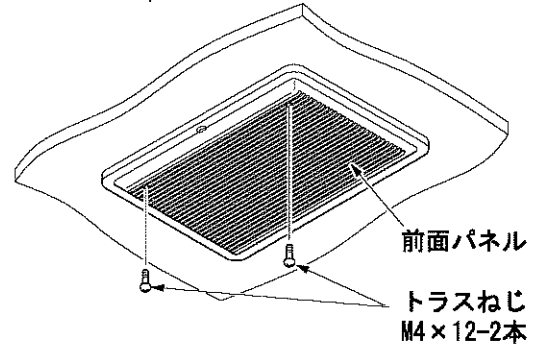
- お手入れ後、熱による乾燥はしないで下さい。変形、変質の原因となります。

【フィルターのお掃除】

1. 前面パネルの表面を、掃除機のノズルでゴミ、ホコリなどを吸いとって下さい。



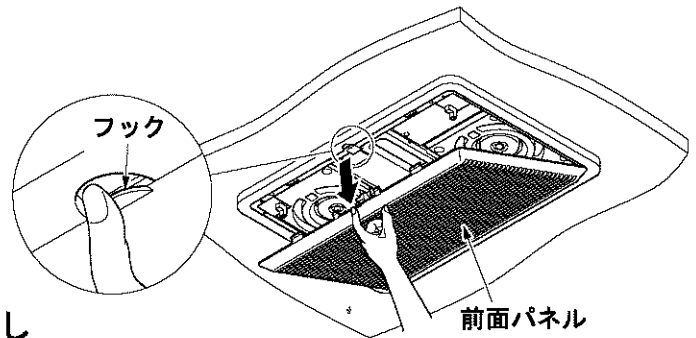
2. 前面パネルの付属のねじ（トラスM4×12-2本）をゆるめて、前面パネル取付金具からはずします。



3. 前面パネルのフックに、指を掛けて前面パネルを外して下さい。

注意

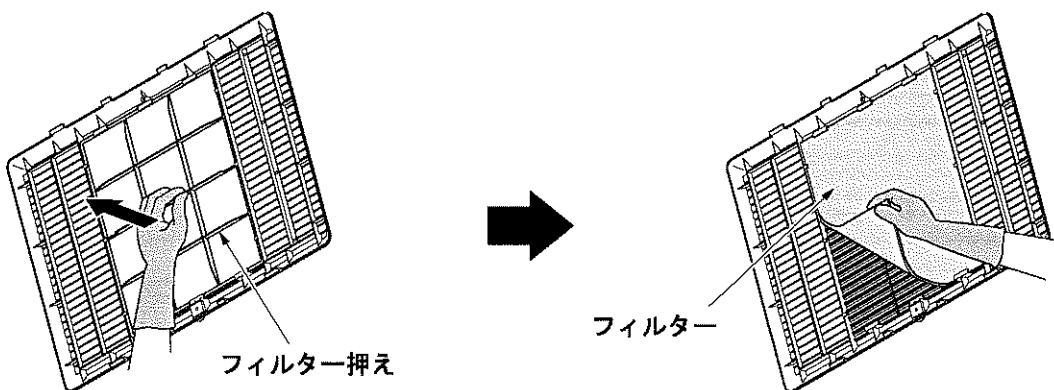
- ・前面パネルの内側に、たまったゴミ、ホコリなどが落ちる場合がありますので、ご注意ください。



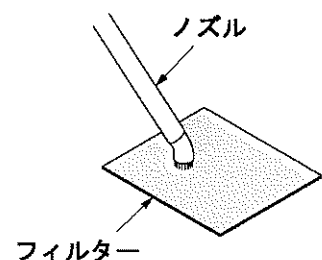
4. 前面パネルから、フィルター押えを外しフィルターをはがして下さい。

注意

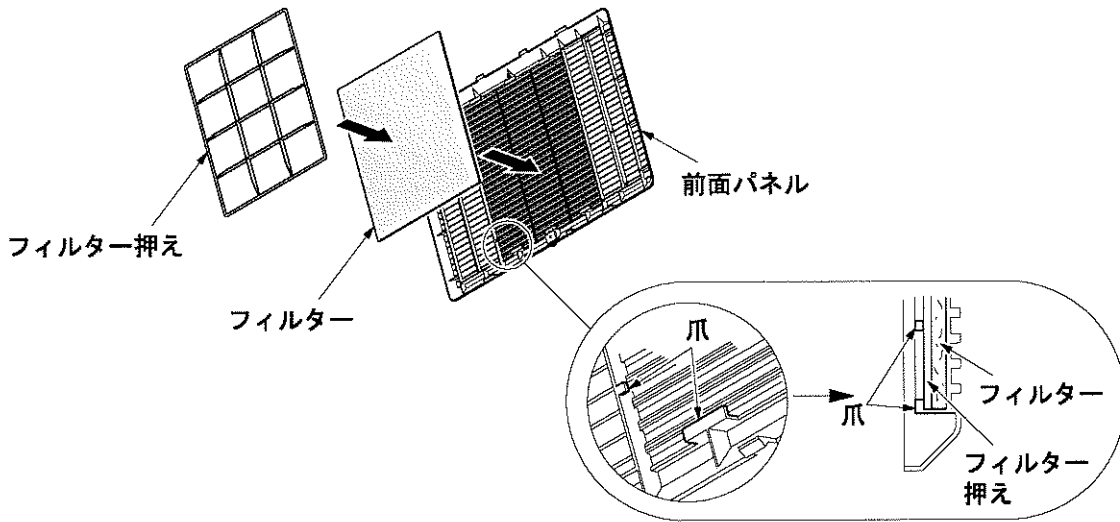
- ・フィルターが、落下しない様にご注意下さい。
- ・フィルター枠、フィルターに、たまったゴミ、ホコリなどが落ちる場合がありますので、ご注意ください。



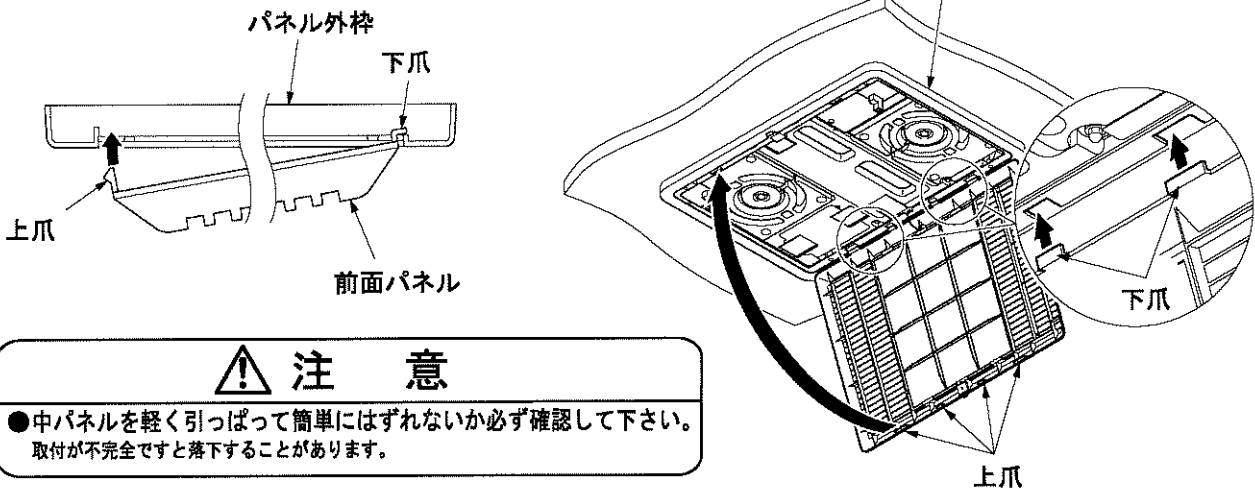
5. 取りはずしたフィルターは、軽く手で叩くか、掃除機のノズルでゴミ、ホコリなどを吸いとって下さい。
汚れがひどいときは、台所用洗剤(中性)をうすめて押し洗いし、十分に自然乾燥させて下さい。



5. お掃除が終わりましたら、前面パネルにフィルターをフィルター押えで、前面パネルの爪にはめ込み、固定して下さい。



6. 前面パネルの下爪を、パネル外枠の穴に引っ掛けて、前面パネルの上爪をはめ込み、固定して下さい。



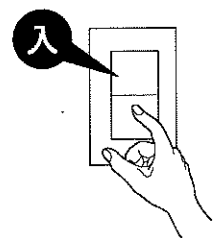
注意

- 中パネルを軽く引っぱって簡単にはずれないか必ず確認して下さい。取付が不完全ですと落下することがあります。

お手入れ後は試運転を行って下さい。

- 電源スイッチを「入」にし、次のことを確認して下さい。

- ・ 異常な振動・騒音はありませんか
- ・ 悪臭はありませんか



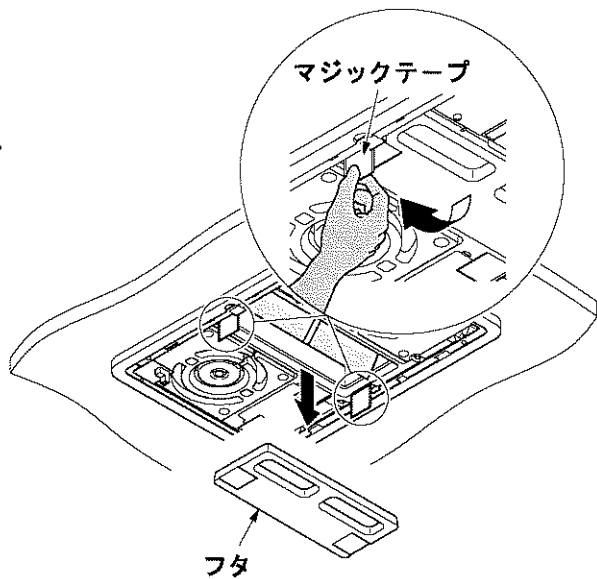
【フィルター、熱交換素子のお掃除】

1. 前面パネルを開ける。(P. 15参照)

2. 左右のマジックテープ(2か所)をはがし、
フタを取りはずして下さい。

注意

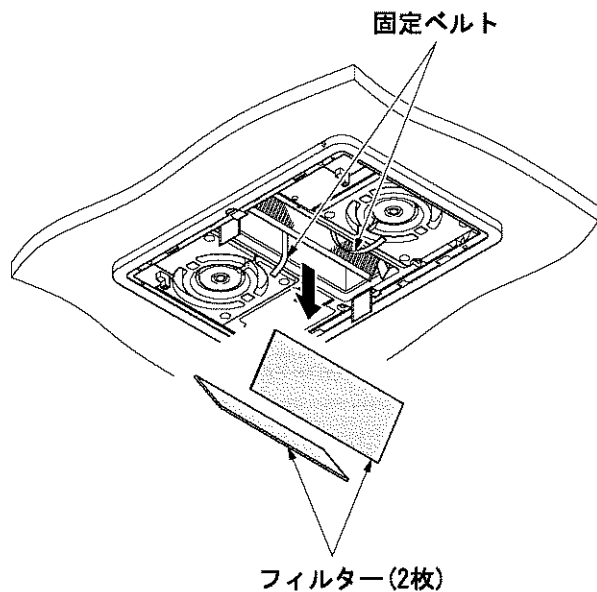
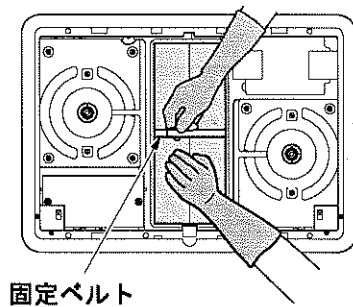
- ・フタが落下しない様にご注意下さい。
- ・フタの内側に、たまったゴミ、ホコリなどが落ちる場合がありますので、ご注意ください。



3. 固定ベルト(マジックテープ)をはがし、
フィルター(2枚)を熱交換素子から、
はがして下さい。

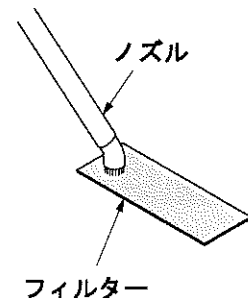
注意

- ・フィルター、熱交換素子が落下しない様にご注意下さい。
- ・フィルターに、たまったゴミ、ホコリなどが落ちる場合がありますので、ご注意ください。



4. 取りはずしたフィルターは、軽く手で
叩くか、掃除機のノズルでゴミ、ホコリ
などを吸い取って下さい。

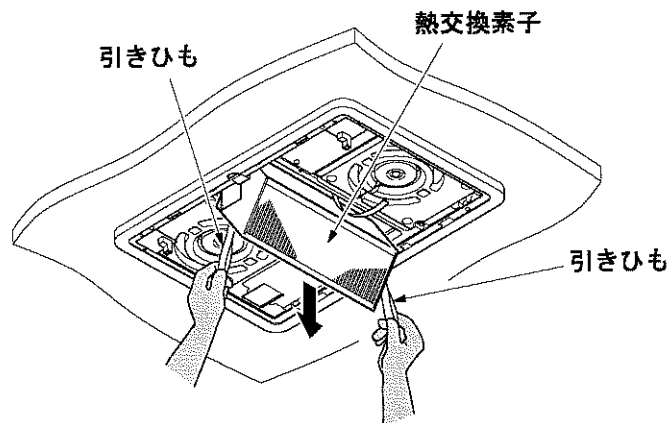
汚れがひどいときは、台所用洗剤(中性)を
うすめて押し洗いし、十分に自然乾燥させて下さい。



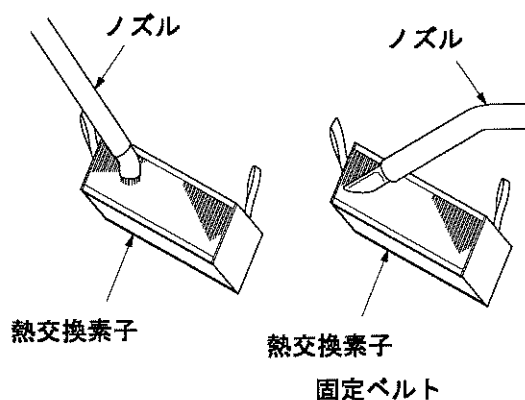
5. 熱交換素子の引きひもを引いて、熱交換素子を、本体より取り出して下さい。

注意

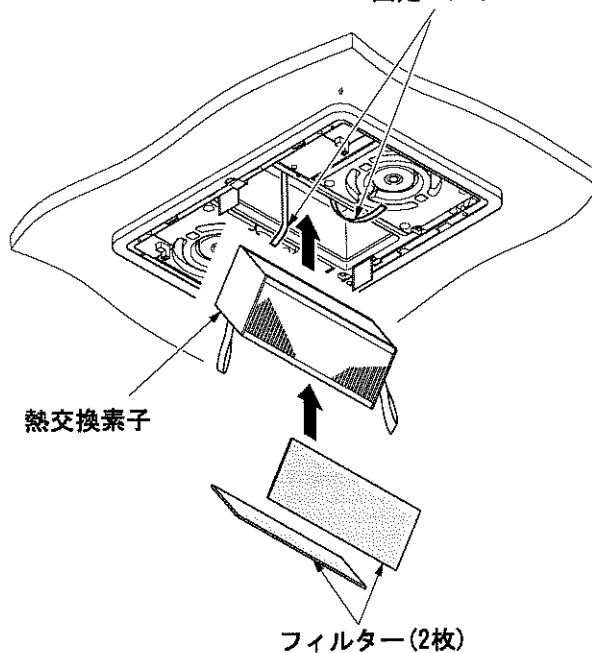
・熱交換素子に、たまったゴミ、ホコリなどが落ちる場合がありますので、ご注意ください。



6. 取りはずした熱交換素子は、掃除機のノズルで、表面のゴミ、ホコリなどを吸いとって下さい。



7. お掃除が終わりましたら本体に、熱交換素子、フィルター(2枚)の順に納め、共に落ちない様、固定ベルトで固定して下さい。固定したあと、もとどおりにフタをはめ、左右のマジックテープで固定して下さい。



⚠ 注意

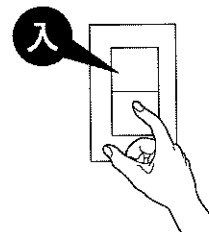
●フィルター・熱交換素子を軽く引っぱって簡単にはずれないか必ず確認して下さい。
取付が不完全ですと落下することがあります。

8. 前面パネルをもとどおりにはめ込み、固定して下さい。
(P. 16参照)

お手入れ後は試運転を行って下さい。

■電源スイッチを「入」にし、次のことを確認して下さい。

- ・異常な振動・騒音はありませんか
- ・悪臭はありませんか



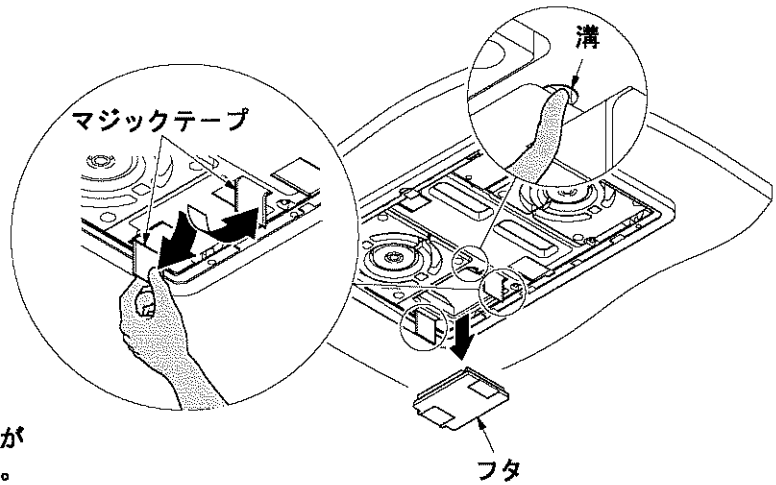
【給気用フィルターのお掃除】

1. 前面パネルを開ける。(P. 15参照)

2. 左右のマジックテープ(2か所)をはがし、本体の溝に指を掛け、フタを取りはずして下さい。

注意

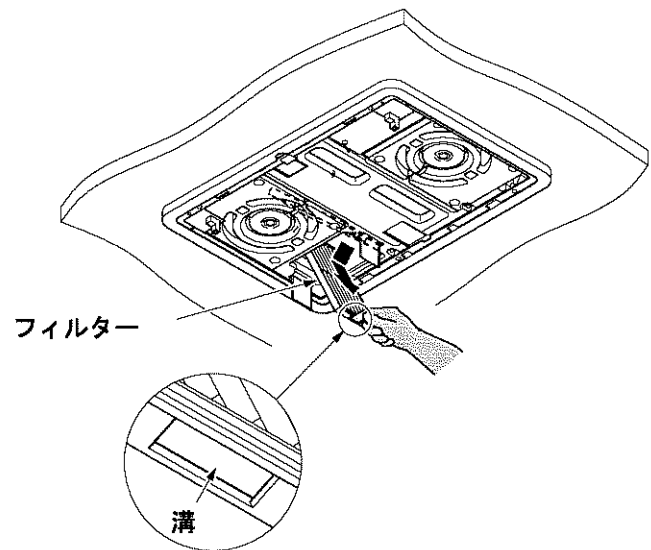
- ・フタが落下しない様にご注意下さい。
- ・フタの内側に、たまったゴミ、ホコリなどが落ちる場合がありますので、ご注意ください。



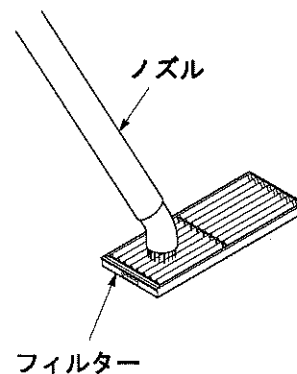
3. フィルターの溝に指を掛け、フィルターをとりだして下さい。

注意

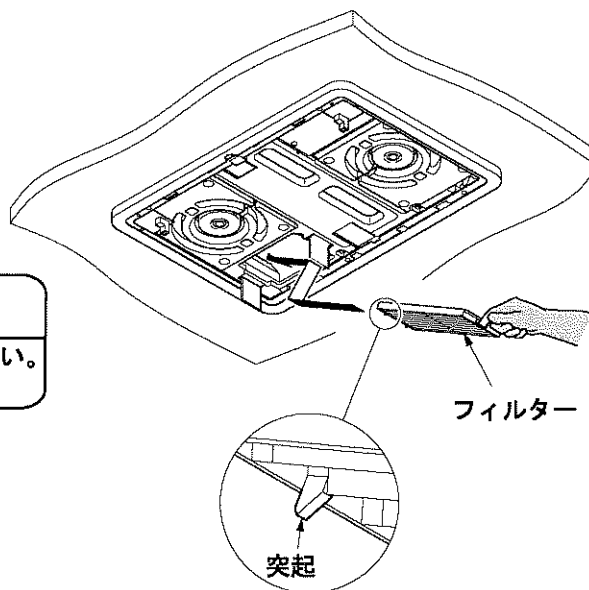
- ・フィルターが、落下しない様にご注意下さい。
- ・フィルターに、たまったゴミ、ホコリなどが落ちる場合がありますので、ご注意ください。



4. 取りはずしたフィルターは、掃除機のノズルでゴミ、ホコリなどを吸い取って下さい。



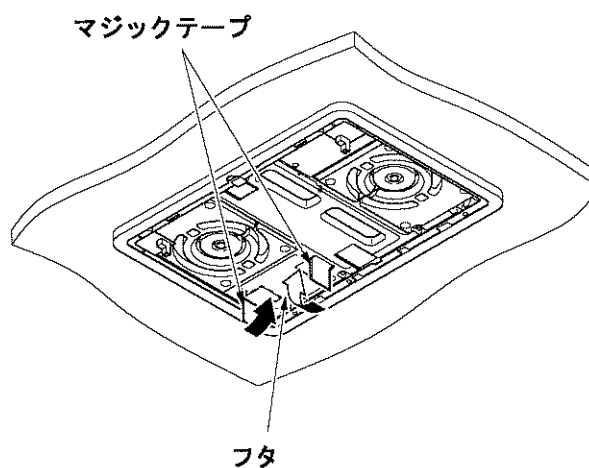
5. お掃除が終わりましたら本体に、
フィルターを差込んで下さい。



注意

- フィルター先端の突起を必ず上に向けて差し込んで下さい。
取付が不完全ですと落下することがあります。

6. フタをはめ、左右のマジックテープで
固定して下さい。



7. 前面パネルをもとどおりに
はめ込み、固定して下さい。
(P. 16参照)

お手入れ後は試運転を行って下さい。

■ 電源スイッチを「入」にし、次のことを確認して下さい。

- ・ 異常な振動・騒音はありませんか
- ・ 悪臭はありませんか

